

# 事業報告書

登戸・向ヶ丘遊園地区は、新宿から約 20 分、JR と小田急線が交わるという立地、自然豊かな多摩川や生田緑地、文化施設など地域資源にも恵まれています。現状はやや停滞感が拭えない街です。また、大規模な土地区画整理事業が進行中で、まちが大きく変貌していきます。のぼりとゆうえん隊はこの地区が、住む人・訪れる人にとって魅力的なまちとなることを目指し、多様な活動を行ってきました。そして、この度、新たな取り組みとして「のぼりと まちなかアートプロジェクト(noborito-map)」をスタートさせました。

一昨年からは生田緑地にある岡本太郎美術館と連携して「まちなかアートプロジェクト連続セミナー」(全 3 回)を開催しました。そこでは、いま、アートは、絵画・彫刻といったモノだけでなく、人をワクワクさせるコトといった体験やコミュニケーションの創出まで、その領域を拓いているということを学びました。そこで、まちの資源を有効に活用し、区画整理で変わりゆくこのまちを積極的に捉える手法として、「まちなかアート」を展開するという「のぼりと まちなかアートプロジェクト(noborito-map)」を構想しました。アーティストがまちに関わることにより、そこに新しい魅力が生まれ、人々がそれに触れ、新しいコミュニケーションと「記憶の共有」が生まれる…、そんな出来事の連鎖で「楽しい我がまち」を目指したいと考えています。noborito-map は、登戸・向ヶ丘遊園地区の未来への地図を描くプロジェクトなのです。

セミナーの発展形としてまちなかアートの試みを実現するチャンスを模索していたところ、「川崎市多摩福祉館」(通称:たまかん)が、昨年 3 月末に閉館することが分かりました。この施設は保育園・知的障害者施設・児童館からなる公共施設で、約 38 年間地域で愛され使われてきた施設です。今回、多摩区役所と事業を共催することで場の提供を受け、用途廃止後解体を待つ この施設を時限利用するまちづくり実験として、noborito-map 第一弾「たまかんさよならパーティ」を開催することになりました。

「たまかんさよならパーティ」は 4 月 29 日～5 月 14 日までの期間中 10 日間開催され、約 2250 人の来場者を得ました。期間中 11 組のアーティストによる展示、明治大学建築学科小林研究室によるまちなかラボ、地域の 5 つの市民団体や保育園保護者会有志による取り組み、20 を越える多数の協力団体によるイベントなどが行なわれ、多面的かつ重層的な取り組みとなりました。また、期間中にコミュニティカフェを開催し、各取り組みの情報提供を行ったり、来訪者間のコミュニケーションを活性化するように取り組みました。

開催後には、11 月 11 日にシンポジウム「人 X まち X アートーたまかんさよならパーティから見た まちなかアートの可能性ー」をのぼりとゆうえん隊主催、岡本太郎美術館共催で開催しました。本事業内で行なわれた多様な取り組みが包括的に報告され、他地区の事例も交えてパネラーによる意見交換が行なわれた結果、区画整理事業の進行と平行してこのような取り組みを行なう意義や今後の展開の可能性が語られました。これら一連の成果やシンポジウムの概要は、記録集に取りまとめて年度末に 1000 部発行しました。これらは広報媒体として積極的に活用しています。

この企画を通して以下の 3 つを活動のねらいとしました。

- 1) 生まれ変わりつつある街に新たなイメージの種を蒔くこと
- 2) 地域の活動の交流や連携を通して人々のつながりを築くこと
- 3) 地域や商店街に親しむきっかけをつくり育むこと

区画整理の進行途上で発生する資源を時限活用した「たまかんさよならパーティ」を実施することにより、地元の人々が愛着のある建物の最後の時間を活用して、10 日間ながら地域の人々が新しい価値に出会う公共的な場所をつくりだすことができました。さらに、アートの力を借りて場の潜在的な魅力を創造的に活用する取り組みとしても成果がありました。また、ボーダーを超えて人々をつなぐアートの力により、多様な市民にもアプローチできました。このように今回の取り組みは多面的かつ重層的なモノでしたが、地域のまちづくりに向けた統合的なツールとして可能性が認められたことも成果の 1 つでした。地域のまちづくりの実践として、上記のような成果を確認しつつ、さらに今後の取り組みにつなげていきたいと考えています。

